

日本軍の島侵略は聯合國海軍

マカーナ
「大勝」の結果だ

軍人の目に映する作戦計畫

亞國軍事評論家 力ビタン・M 筆

(2)

三月五日 エル・バ
ンペーロ紙 載

即ち要は以下に記載した二の経験によつて教へ込まれ、途内の一つあるのみだ。殲滅そして實戦の経験に導かれて滅された艦隊は聯合國側の艦隊またも優秀なる日本帝國海隊(日本の報道によれば四巡軍の傳統に不朽の光榮を贏ち洋艦の擊沈、四巡洋艦の大破加へたのだ。この二重奏の大五駆逐艦の擊沈)であつたが、海戦は、こゝにまたもや日本左もなくば、甚だ不思議で諒人は戦争の眞の専門家である解には苦しむ事無であるが聯と謂ふことを明白に證據立て合海軍の大勝利が期せずしてゐる。この二重奏の大五駆逐艦の擊沈は、あつたが、海戦は、こゝにまたもや日本左もなくば、甚だ不思議で諒人は戦争の眞の専門家である解には苦しむ事無であるが聯と謂ふことを明白に證據立て合海軍の大勝利が期せずしてゐる。

日本軍の上陸を容易にし、且つ迅速にしたこと以外には説いて日本と北米は何れが強力

明の附けやうがない。想ふに「なりや」との題下に評論を試

彼等提督連が故意に悪い見方

みた時、「双方の艦隊が相對峙

をしたらしい。何故なら彼等したときにはじめてこれら兩

は二十日目の夜、ボルネオ方國艦隊の指揮の優劣さが解る面に逃げ行く艦隊を見附けただらう」といふ結論をしてゐる。要するに荒波狂

な海上で暴ば

れ迴はることのできるやうに、戰ふのに昨日の敗北者であ

る艦隊は、世界で最も優秀な造船所を具有するとい

うか? 但したゞ一つ彼等

の艦に當つてゐるものがある

その令は、何日かは、運命とは言ひながら何といふ

それが陸軍も同様ではあるが、辛い悲哀であつたらうか?

それは陸軍史

上に記載してゐる

新しいユートランドであつたといふこと、たゞそれだけだ。

だがその二十八日には、バタビアの沖合で聯合艦隊の一部が崩れ落ちた事實を蔽ふことは絶対に出来まい。

日本軍の提督諸帥

全なこともないだらう。日本

の提督連がはじめてその敵艦

隊と向き直つたと思つたら勝

利の全體的決着がついてしま

つた。即ち日本海軍を導く人

々の卓越した能力と或時われ

われが斷言して憚らなかつた

ところのものが事實となつて

現はれたのだ。日本島の確保

を目指して海から海へと住み

たれた水兵達だ。日本の現代

海軍の父アルベルト・アレキサンダー

で征服した東郷元帥の兵學校

においてその技術の教育をう

けて来た彼等海軍だ。彼等

はたゞの演習ではなく、既往

選考二名就任なり役員會構成

第一、役員會構成

選舉委員長河合金吾氏の奔

走により役員會構成

三、下保書記生送別件

決定

四、賀集氏歡迎會の件

決定

人事物相談部

日本軍の提督諸帥

第一、定期總會

第十六回定期總會は二月二

十三日午後三時本會々館に

開催出席者四十七名

議長高市茂氏、副議長鈴木

耀一郎氏

イ 提案質疑事項なし

ロ、役員選舉

同日午後五時選舉委員長

二百八十八號参照のこと)

第一、役員會構成

第二、少年部設置の件

未決

第三、役員會主要協議

本年度定期役員會開催數八

回、緊急役員會五回に及び

その主要協議事項左の如し

研究

第一回「昭和十六年四月十

四十三票内無効三票(當

選者氏名及得點は會報第

二百八十八號参照のこと)

第一、富井大使歡迎會の件

決定

第二、少年部設置の件

未決

第三、下保書記生送別件

決定

四、賀集氏歡迎會の件

決定

五、正午から午前零時半まで

其他獨伊亞ニユース上映

五、正午から午前零時半まで

日本太洋艦隊司令

五、正午から午前零時半まで